

### 【発達検査の結果】

氏名：上見 侑聖さん 年齢：5歳11ヶ月（5歳10ヶ月20日）

生年月日：2018年5月7日

検査実施日：2024年3月27日

新版K式発達検査2020を実施致しました。以下の通り結果をご報告致します。

	発達年齢	発達指数	上限（最もできた課題）	下限（最もできなかった課題）
姿勢・運動【運動発達の領域】	3歳1ヶ月	52		『ケンケン』 3歳～3歳6ヶ月の課題
認知・適応【物を操作したり、形を把握していく力の領域】	5歳1ヶ月	86	『模様構成 I 4/5』 『積木叩き 6/12』 5歳6ヶ月～6歳の課題	『階段の再生』 『玉つなぎ』 『正方形模写』 4歳6ヶ月～5歳の課題
言語・社会【言葉や人とのかわりに必要な力の領域】	4歳5ヶ月	75	『絵並べ 3/3』 6歳～6歳6ヶ月の課題	『3数復唱』 2歳9ヶ月～3歳の課題
全領域	4歳7ヶ月	77		

発達年齢とは、実際の年齢ではなく、どれくらいの発達を歩んでいるかを表す値です。

発達指数とは、実際の年齢に対する値です。発達年齢÷実年齢で計算し、年齢相応の値は100です。発達年齢が前回と同じでも実際の年齢が上がると、発達指数は下がります。一般的に平均は80～119の範囲です。

#### <検査時の様子など>

遊びの部屋での遊びを楽しみに来所したとのことで、部屋に入るなり「早く！」と急かしていました。課題が提示されると「簡単！」と言って、説明を聞くよりも先に道具を取ったり、回答を始めたりする様子が見られましたが、『最後まで見て（聞いて）』の声かけが事前にあると、待つことができました。

難しい課題では、すぐに「難しい」と弱気な発言がありましたが、励まされるとやってみようと意欲を再度高めてがんばっていました。

#### <まとめ>

前回（2023年7月）と同様に発達がアンバランスな傾向がありますが、発達年齢を見ると4歳後半の発達に進んでいて、侑聖さんペースで成長していることがわかります。

#### ◇身体の使い方について

『ケンケン』は勢いをつけて跳ぼうとしますが、身体の軸が安定せずすぐに足を着いてしまいました。まだ自分の重心が傾くと姿勢を保つのが難しいようでした。2つの動作を同時にする苦手さがあるのかもしれませんが。見本通りにビーズを通す課題や、並んでいる丸を指で当てて数える課題では、見ているところと作業がずれてしまい、したところをもう一度見るなど見間違いが生じていました。情報量が多いと、目と手の協応作業が上手いかないことがあるようです。見ながら行う作業をする時には、数字などをつけてどこまでしたか手がかりを作ったり、見やすく空間を空けたり、提示する量を少なくしたりする工夫が大切です。

一方、今回見られた成長として、自分のボディイメージが獲得していたり、目で動きを追って記憶する『積木叩き』では目がしっかり動かせるようになっていたりしてました。今後も継続して、外遊びなど身体をしっかり使って遊び、目をしっかり使う経験を積み上げましょう。

#### ◇言葉について

言葉の知識が豊かになっています。検査者が『それってどういうこと？』と質問すると、考えて説明する事もできました。言葉をつなげて文章で説明するようになっていきますね。言葉に親しみながら生活をされていたことがわかります。今後も楽しみながら言葉になれていきましょう。

現段階では、言葉の概念の難しさが見られました。今の年齢では困ることは無いと思いますが、概念理解は、言葉の意味理解、物事の本質を理解する力に必要です。言葉の説明や会話の中で大事な事につかめていないことがあれば、就学後の学習でつまづく可能性もあります。今後発達していく可能性もあるので、言葉の理解につまずいていることがあれば、何がわからなかったのか整理し、噛み砕いて説明してあげてください。

#### ◇記憶に関して

頭の中に記憶を留めておくことができるようになっていました。すぐに思い出せなくても、少し時間が経ってから思い出して答えることができます。視覚的な記憶が得意ですが、言葉で言われた質問も間違えて答えた後に、正しい答えを言いなおす場面もあり、視覚、聴覚ともにワーキングメモリー（記憶を留めながら作業する・考える力）が発達していることがわかりました。じっくり考えられる力になりますね。

聞いた事を復唱する課題では、その記憶の力が十分に発揮できません。ワーキングメモリーの発達を獲得されていますが、聞いた事を正確に再現できませんでした。情報量が多いと部分的にしか処理できないといった聴覚記憶の情報量の関係もあるかもしれませんが、“だ”と“ら”の音の聞き間違いあるというお話からは、万が一、十分に聞こえていない可能性もあるので、就学前には情報提供いたしました聴覚センターで詳しく聞こえをチェックしてもよいかもしれません。普段の生活の中で、聞き間違いや聞き逃しがあるか様子を見ておきましょう。

#### ◇就学について

『目で追いながら作業する』『言葉の概念理解』『聴覚的な情報を正確に保持できない』特徴は、教科書や黒板の字を目で追って書く、説明の大事な所が掴みきれないといった様子につながります。今後発達していく可能性もありますが、生活の中で『作業に見間違いがある』『言葉の説明ではピンとこず、周りに付いて行っている』などの様子があれば、侑聖さんに合った支援やサポートを受けることが望ましいと考えられます。もし、それらの様子があれば、学校の先生に知ってもらう必要があります。

侑聖さん自身、“できないかも”という自覚を持っていますので、自信を持って学校生活を送ることを一番に考え、早いですが就学に向けて情報を集めてください。教室の中でどれくらいサポートが得られそうか学校見学に行ったり、園の先生や療育の先生に協力してもらいながら考えたりすることが大切です。

\* 次回は令和6年11月13日(水)14:30~再度検査を取って発達の経過を見ていきましょう。